

まず始めに「光」について資料を基に説明がありました。(別紙資料参照)

「順光」・・・正面からの光。見た目に近い感じの写り。

「サイド光」・・・横からの光。光と影がはっきりと出て立体的に映る。

「半逆行」・・・サイド光と逆行の間の光。印象的な雰囲気の写真。

「逆光」・・・後ろからの光。シルエットなどの写真の光。



次は、講師が実際に携帯のスマートフォンで撮った写真を見ながらどの「光」で撮ったかの説明がありました。被写体が講師のかわいらしいお子様だったり、身近な草花だったりしたので、一気に受講生の雰囲気が和んだようでした。今回は、「逆光」、「半逆光」での撮影を目標に撮影をしてみましょう！と講師からの提案があり、受講生は撮影をスタートさせました。

今回の被写体は、造花と麒麟のぬいぐるみです。2か所の撮影場所を設け、ライトを太陽に見立てて、「花」と「麒麟」の撮影会のはじまりです。それぞれ、受講生に自分のスマートフォンで実際に撮ってもらいます。受講生は、被写体に向かい、しゃがんだり、下からだったり、上からだったり、スマートフォンを斜めにしたりいろいろな角度からの撮影に挑戦しました。撮影をしている受講生に講師からは「もう一歩寄りましょう！」、「近づいて

みましょう！」との声掛けがありました。カメラ初心者の方は自分の撮りやすい所で被写体を撮影しがちになってしまうようです。いつもより被写体に寄って撮影するこの一歩踏み出すことがいつもと違う写真への一番簡単にできるコツのようです。

撮影中に『露出補正機能』についての説明がありました。スマートフォンの機種によってはこの機能が搭載されていないものがありますが、画面が



明るくなり、より良い作品になる機能です。受講生からは「こんな知らなかった。はじめで知った。」との声。講師は、あくまで1つの技であり、作品の幅が広がります。との事でした。

次は、「手前のモノにピントを合わせ、背景のモノをぼかす」撮影方法。スマートフォンに『ポートレートモード』機能があればそれを使うと便利との事。これは、講師が実際に手前の花にピントを合わせ、後ろのキリンをぼかす撮影を実演している様子です。撮影したものが受講生もすぐに見えるので良く分かりました。



講師の説明の後、直ぐに撮影ポイントに移動をし、撮影しました。続けて、今までとは逆に後ろにピントを合わせずという撮影にも挑戦しました。受講生がそれぞれ撮影した写真はその都度、講師が見て、一人一人に向けたアドバイスを丁寧にして下さいました。

最後は、人物を被写体として撮影しました。講師からは事前に、モノを撮るのとは違って、人物の場合「いつもより一歩寄って撮る。」「モデルになってる人に一声かけて撮影して下さい。」との、アドバイスがありました。受講生は、早速「お願いします。」「撮りま〜す。」など一声かけ、いつもより寄って撮影をすることを心掛けていました。人物のモデルとなっ



た方も、「無言で撮られると、いつ、撮られているのかがわからないし、人前で緊張しているので、ちょっとした一言で、気持ちが和み自然の表情ができやすい。」とおっしゃっていました。人とモノを撮るのはまた、違ったテクニックが必要のようでした。

講座の合間に、これは講師が撮影した作品なのですが、

「この作品はどうやって撮影したと思いますか？」講師からの投げかけられた質問ですが、なんと

「これはスマートフォンを上下逆さまにして撮影すると撮れます。」との答えが。ちょっとしたことで、撮影技術の幅が広がるプチ情報が良かったです。

実技のあと、それぞれ普段の撮影で困っている事やわからないことを受講生が質問しました。受講生からは、楽しく学ばせてもらえた、次回もあれば受けたい、との感想がいただきました。知らなかった撮影方法を楽しく学べてより、スマートフォンでの撮影が楽しく、操作出来るようになったのではないのでしょうか。

